

ゆめ わらわ 夢 亭

菅波 茂

2012年10月27日。

場所はインド連邦ビハール州ブツガヤ。太生山一心寺別院とAMDAピースクリニック設立4周年記念と世界平和を祈念した法要が行われた。太生山一心寺は岡山市の郊外にある。ご住職は中島妙江僧上。太生山一心寺は「詐欺師も来ない」小さなお寺である。檀家はゼロ。庵に近い雰囲気である。一方では、アジアの仏教界の発展を志向する若い弟子がすでに9人。「小さな存在、大きな発信力」がその特徴である。

2000万円の浄財か

らすべてが始まった。中島妙江僧上の女性の信者さんが、AMDAへ申し出られた。「インドの貧しい人たちの医療に使ってほしい。感謝のお金です。それ故に私の名前は伏せてほしい」と。私は迷わず、お釈迦様が悟りを開かれたブツガヤにAMDAピースクリニックを開設したいと思っ

日本—インド友好病院設立の夢

となった世にも珍しい宗教と医療の合体建築が完成した。世界遺産であるマハボデイ寺院から700呎の距離。2006年には半径500呎以内の新規建築は禁止。従って感謝しかない。

中島妙江僧上の畏敬すべき不思議な特徴。「お

金に喜びの旅をさせる」名人である。前後見境なしに、衝動的に人にお金を出すように見える。しかし、数年あるいは10年経つとその成果が発露する。関係者すべてに喜びの形で還ってくる。中島妙江僧上のお金は「意欲と能力があるにも関わらずに機会がもらえなくて自己実現の喜びを持たない人たち」に出されている。太生山一心寺別院とAMDAピースクリニ

ク設立では、中島妙江僧上が時かかれていた人間関係が陰に陽に活きてきて実現。喜びにより不可能が可能になっている。

次は、このブツダガヤの地で小児心臓手術ができる小規模病院の設立である。名称は日本—インド友好病院。ビハール州の人口は約1億人。小児心臓外科医は1名もないという。毎年一定の確率で先天性心疾患の子どもが生まれてくる。そして死ぬ。世界的に有名な小児心臓外科医である佐野俊二教授（岡山大



AMD Aインド支部長カマト医師、中島妙江・太生山一心寺ご住職、伊藤通明・静岡県感應寺ご住職、筆者

学）の協力のもとに進行している。インドで最も貧しいビハール州のブツダガヤにこの病院を設立することは私の大きな夢である。世界は大変革の時代を迎えようとしている。2008年のリーマンショックに続き、2013年

にはいよいよ世界的大不況に突入しようとしている。日本は明治維新後にヨーロッパの武力文明を、太平洋戦争後に米国の物質文明をモデルとして追及してきた。次はアジアの時代だが、まねるべき欧米のモデルはない。「精神」がテーマになる。アツアからキリスト教、イスラム教そして仏教の世界三大宗教が生まれている。「困った時はお互いさま」の相互扶助である。しかも、共同体を超えて助け合う「開かれた相互扶助」が究極の指標である。仏教が生まれた地であるブツダガヤにできるこの病院が大きな精神的象徴になればと願いたい。(AMDAグループ代表)